

平成 23 年度胆振管内観光入込客数の状況について

平成 24 年 7 月
北海道胆振総合振興局

1 概要

胆振管内の平成 23 年度（平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月）における観光入込客数は、13,457.6 千人で、前年度（14,840.4 千人）と比べて 1,382.8 千人の減少（前年度比 90.7%）となり、平成 20 年度以降、4 年連続で観光入込客数の減少傾向（毎年 2～4%減少）が続いていましたが、平成 23 年度はその中でも非常に大きな落ち込みとなりました。

平成 23 年度上期（4 月～9 月）においては、前年度国内で発生した口蹄疫の影響により自粛したイベントを今年度は例年どおり開催したため一部市町では入込客数が増加したものの、全体的には、東日本大震災や原発事故の影響に加え、中東・北アフリカ情勢の緊迫化に伴うガソリン価格の高騰、ゴールデンウィークやお盆等の連休における天候不順等の影響により、観光入込客数は 8,119.7 千人と前年度同期（9,241.3 千人）と比べて 1,121.6 千人の大幅な減少（前年度同期比 87.9%）となり、特に外国人を含む道外観光客の大幅な減少（2,313.3 千人、前年度同期比 73.2%）が顕著になっています。

一方、下期（10 月～3 月）においては、一部前年度同期よりも観光入込客数が増加した市町があったものの、全体としては、依然として東日本大震災や原発事故の影響により、外国人観光客の減少傾向が続いたことに加え、ガソリン価格の高止まりや冬場の天候不順等の影響により、観光入込客数は 5,337.9 千人と前年度同期（5,599.1 千人）と比べて 261.2 千人減少しましたが、前年度同期比では 95.3%と、減少幅が徐々に緩和されつつあります。

道外・道内別で見ると、道外観光客は 3,893.6 千人（構成比 28.9%）で前年度比 81.0%、道内観光客は 9,564.0 千人（構成比 71.1%）で前年度比 95.3%となっており、道外客、道内客ともに前年度より減少しました。

日帰り・宿泊別で見ると、日帰り客数は 11,111.2 千人（構成比 82.6%）で前年度比 90.6%、宿泊客数は 2,346.4 千人（構成比 17.4%）で前年度比 91.2%となっています。また、宿泊客延べ数は 2,526.8 千人で、前年度比 91.3%となりました。

月別で見ると、上期は、6 月が前年度国内で発生した口蹄疫の影響により自粛したイベントを今年度は例年どおり開催したため、道内観光客が前年度に比べて大きく増加（前年度同月比 110.7%）し、入込客数は前年度同月近く（95.8%）まで回復したものの、それ以外の月は、東日本大震災や原発事故の影響等により、前年度同月の入込客数と比較すると約 7%～20%ほど減少しました。

一方、下期は、10 月が前年度と比べて 7.5%減少で、11 月は 5.2%の減少、12 月は 1.1%の減少、1 月は前年度と同程度と、入込客数は徐々に回復傾向にありましたが、2 月は、アジア地域の春節が前年度とずれたことや、冬場の天候不順が続いたことから、前年度と比べて 16.6%の減少となり、下期全体でも減少となりました。

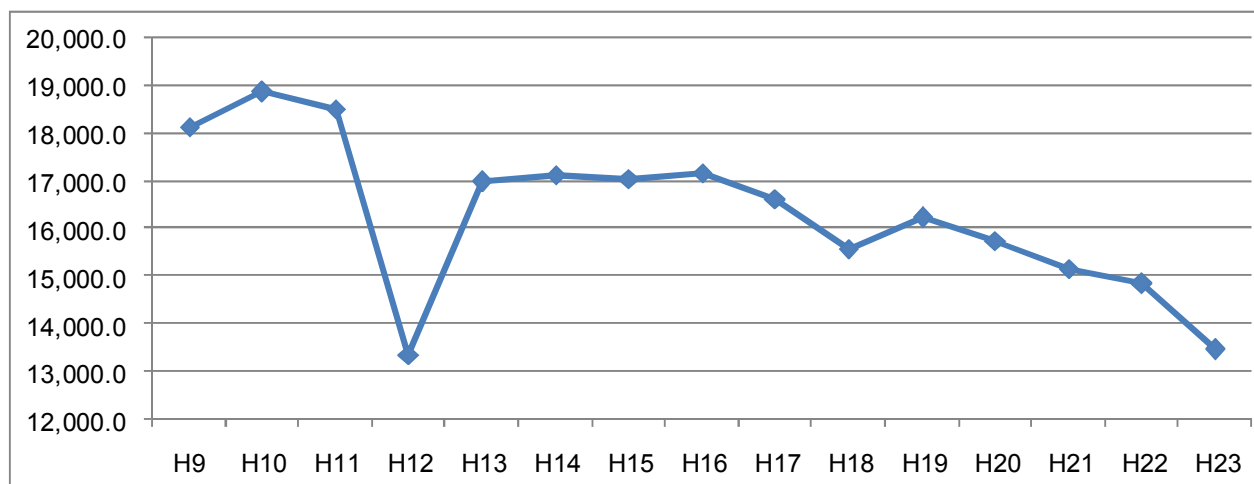
【参考 1】平成 23 年度胆振管内観光入込客数内訳

(単位：千人、%)

区 分		平成23年度観光入込客数		対前年度比	前年度からの増減数	備考
			構成比			
道内・道外別	道外客	3,893.6	28.9	81.0	▲ 911.9	対前年度比で見ると、道外客、道内客ともに減少しています。
	道内客	9,564.0	71.1	95.3	▲ 470.9	
日帰り・宿泊別	日帰り客	11,111.2	82.6	90.6	▲ 1,155.1	対前年度比で見ると、道外客、道内客ともに減少しています。
	宿泊客	2,346.4	17.4	91.2	▲ 227.7	
総 数		13,457.6	100.0	90.7	▲ 1,382.8	
宿泊客延べ数		2,526.8	-	91.3	▲ 241.4	

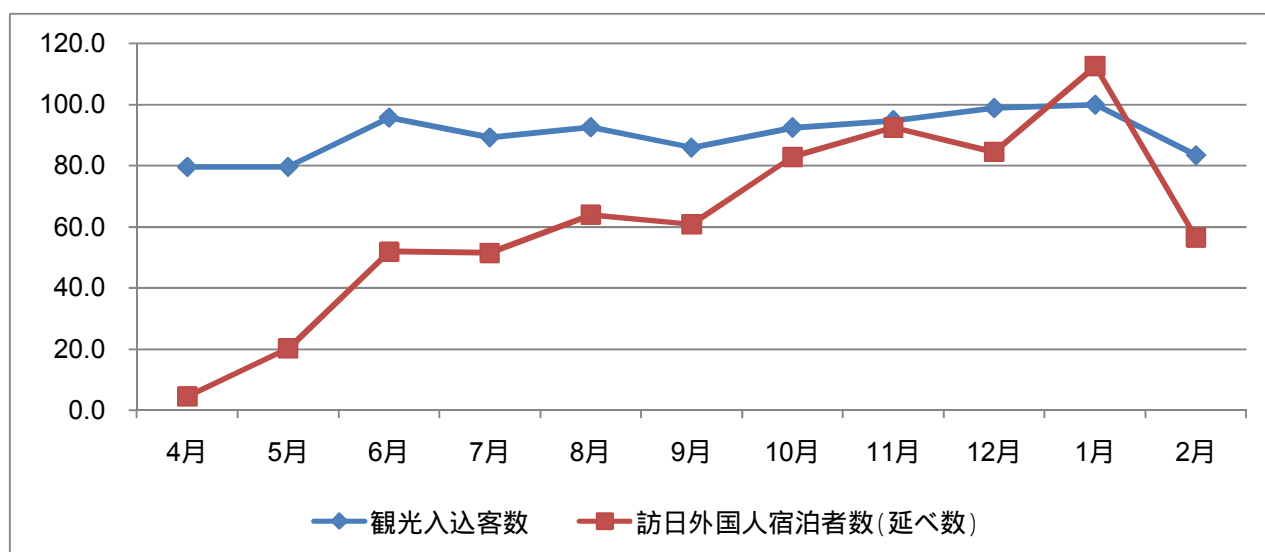
【参考 2】胆振管内観光入込客数の推移 (H9～)

(単位：千人)



【参考 3】胆振管内観光入込客数対前年度同月比の推移

(単位：%)



※3月 は、前年度に東日本大震災が発生し、単純比較ができないため、掲載していない。

2 市町別状況

(1) 室蘭市 (入込数：947.7千人 前年度比：86.3% 前年度増減数：▲149.9千人)

【上期】

4月から7月までの間は、東日本大震災や原発事故の影響や、中東・北アフリカ情勢の緊迫化に伴うガソリン価格の高騰、ゴールデンウィーク期間(4月29日から5月5日まで)の天候不順が影響し、入込客数が大きく減少したものと推測されます。また、8月から9月までの間は、お盆期間(8月4日から17日まで)の休日取得のピークである14日(日)が雨天となり大きな集客に繋がらなかったこと、本市を代表する秋の一大イベントであるスワンフェスタが大型台風の接近により中止になったこと等、悪天候が続いたことが入込客数の減少に影響したものと推測されます。

【下期】

主な傾向としては、10月初旬に客船「ダイヤモンドプリンセス号」の入港がありました。また、1月の「初日の出」のイベントが好天に恵まれ入込み増となり、さらに「白鳥大橋記念館」では、年末年始の好天と団体客が増えたことにより、入込み増となりました。しかし、東日本大震災や原発事故の影響により外国人観光客が大幅減となり、さらには1月中旬以降の天候不順により、「地球岬」等を代表する屋外施設の入込みが大きく減少し、結果として前年比3%減になったと推測されます。

(2) 苫小牧市 (入込数：1,792.6千人 前年度比：106.8% 前年度増減数：114.4千人)

【上期】

今年度から、観光客に人気のある「海の駅 ぷらっと港市場」を入込客数調査の新たな調査対象に加えたことから、全体としては入込客数が微増になりました。なお、ぷらっと港市場を調査地点として勘案しなかった場合の入込客数は1,031.8千人で43.0千人の減少(対前年度同期比96.0%)となります。月別で見ると4月のみが大幅に下がっていますが、これは東日本大震災や原発事故の影響と考えられます。

【下期】

上期と同様、今年度から「海の駅 ぷらっと港市場」を調査対象に加えたため、全体としては微増になりました。なお、ぷらっと港市場を調査地点として勘案しなかった場合の入込客数は599.1千人で4.3千人の減少となります。また、ぷらっと港市場を抜いた場合に減少しているのは、ホテルニュー王子、プリンスホテル等大手ホテルが閉鎖したことによる影響と考えられます。

(3) 登別市 (入込数：2,661.2千人 前年度比：87.5% 前年度増減数：▲381.1千人)

【上期】

東日本大震災や原発事故の影響により、前年度同期に比べて、入込客数は減少しました。しかしながら、道内客については、震災対策キャンペーンの効果や夏休み等の長期休暇を機に旅行自粛ムードが解消されてきたことから8月及び9月にはほぼ前年度並みとなりました。一方、道外客については、自粛ムードは解消されてきたものの、震災等の影響により旅行先が西日本にシフトしたことや安近短の旅行が増加したことにより減少したと考えられます。

【下期】

下期に入り震災による自粛ムードが概ね解消され、下期全体ではほぼ前年並に回復しています。ただし、外国人宿泊客数を見ると、韓国が前年同期比54%、シンガポールが59%と回復傾向は見られず、放射能への不安による訪日旅行への懸念の継続や円高が影響しているものと考えられます。また、月毎で見ますと、2月は前年対比75%と、道外客・道内客ともに減少しています。要因としては、アジアの国々の春節が今年は1月であったことや、例年にはない大雪によって旅行者(特に日帰り客)

の動きが鈍くなったことが考えられます。3月には前年対比124%と道外客・道内容ともに増加傾向を示しているが、これは、震災が起こった3月との比較であるため、単純比較はできません。震災前の水準（平成21年度3月）と比較すると、88%であり、2月同様、大雪という気象要因が影響している可能性があります。

(4) 伊達市（入込数：1,987.8千人 前年度比：89.9% 前年度増減数：▲224.1千人）

【上期】

東日本大震災や原発事故の影響により、北湯沢温泉（伊達市大滝地区）の入込客数が減少したことにより、平成23年度上期の入込客数は、対前年度同期と比較して7.8%減少しました。一方、伊達市街地においては、東日本大震災や原発事故の影響はほとんど見られませんでした。

【下期】

下期も上期と同様に東日本大震災や原発事故の影響が見られました。特に北湯沢温泉（伊達市大滝区）への影響は大きく、北湯沢温泉の入込客数が減少したことにより、対前年度同期と比較して12.7%減少しました。一方、伊達市街地においては、減少はしているもののほぼ例年並みとなっています。

(5) 豊浦町（入込数：352.8千人 前年度比：106.6% 前年度増減数：21.8千人）

【上期】

前年度国内で発生した口蹄疫の影響により自粛した、「いちご豚肉まつり」を今年度は例年どおり開催したこと、「道の駅とようら」や「渚パークゴルフ場」といった観光施設の利用者の増加したことに伴い、前年度同期と比較すると入込客数は増加しました。

【下期】

11月、1月、3月と前年度よりも入込客数が増加したものの、2月の入込客数については、町内で行われたイベント「まるごと豊浦・北の収穫祭」の来場者数が悪天候により減少したため、この影響により、前年度よりも大きく減少しました。

(6) 洞爺湖町（入込数：2,020.1千人 前年度比：82.1% 前年度増減数：▲441.7千人）

【上期】

東日本大震災や原発事故の影響により道外からの客足が遠のいたものの、道内容は安近短の傾向から入込客数は前年度同期と比べ、4月及び6月はプラスとなりました。訪日外国人宿泊者数は、東日本大震災や原発事故の影響だけでなく円高の影響も加わり、対前年度同期比34.6%となりました。

【下期】

東日本大震災や原発事故の影響は、上期に比べると減少したものと考えられますが、全体としては前年度を下回りました。しかし、24年1月及び3月は前年度の入込客数を上回りました。また、洞爺湖町を舞台にした映画「しあわせのパン」が1月から全国で上映されたこともあり、道内外からの来町者数の増加が見られました。

(7) 壮瞥町（入込数：1,287.5千人 前年度比：81.6% 前年度増減数：▲289.4千人）

【上期】

東日本大震災や原発事故の影響により、4月の入込客数は対前年度同月比で約5割の減少、5月は対前年度同月比で約4割の減少、6月及び7月は対前年度同月比で約2割の減少、8月は対前年度同月比で約1割の減少まで戻したものの、9月は対前年度同月比で2割の減少となり、全体としては前年度同期と比較すると約2割の減少となりました。訪日外国人宿泊者数に関しては更に深刻で、対前

年度同期比で約4割の減少、人数で約14千人あまりの減少となっており、6月及び7月で一時盛り返したものの、9月は対前年度同月比約6割まで戻ってしまいました。

【下期】

下期は震災や原発事故の影響から一時立ち直りを見せました。一方で、昭和新山地区の主力顧客層である東南アジアからの外国人客の回復が鈍く、全体としては前年割れの数字となりました。また、国内客についても長引く不況や節電を含む旅行需要の後退の影響を受けたものと思われ、前年度同期よりも11.1%減少しました。

(8) 白老町 (入込数：1,721.7千人 前年度比：97.7% 前年度増減数：▲40.6千人)

【上期】

上期の入込客数は1,022.8千人と、前年度同期と比べて2.2千人ほど増加となり、ほぼ横ばいを保ちました。要因としては、東日本大震災や原発事故の影響により道外客が55.7千人の減少となりましたが、前年度国内で発生した口蹄疫の影響により自粛したイベントを今年度は例年どおり開催したことや緊急対策によるイベント等の集客効果により、道内客は57.9千人の増加となりました。また、宿泊客も前年にリニューアルオープンした観光施設の集客の効果により、ほぼ横ばいを保ちました。

【下期】

1月が前年度同月よりも増加したものの、長引く経済状況の影響は大きく、それに加えて、依然として続いている東日本大震災や原発事故の影響による観光客の減少、特に外国人観光客の減少が目立ち、前年度よりも5.8%減少しました。

(9) 安平町 (入込数：335.1千人 前年度比：102.7% 前年度増減数：8.8千人)

【上期】

前年度国内で発生した口蹄疫の影響により自粛した夏場のイベントを、今年度は例年どおり開催したことに伴い、7月の入込客数が大幅に増加したため、全体としては対前年度同期に比べて4.1%の増加となりました。しかしながら、各月とも道内外からのゴルフ客が減少しました。(道外者500人～1,000人減、道内者1,000人～3,000人減)

【下期】

スキー場の利用客増加により、下期全体の入込客数は増加しましたが、町内ゴルフ場及び町内入浴施設の利用者の入込客数は前年度より減少しました。

(10) 厚真町 (入込数：150.6千人 前年度比：108.7% 前年度増減数：12.1千人)

【上期】

前年度国内で発生した口蹄疫の影響により自粛した、6月の「田舎まつり」と7月の「海浜まつり」を、今年度は例年どおり開催したことに伴い、前年度同期と比較すると入込客数は13.3%の増加となりました。

【下期】

全体的には減少したものの、こぶしの湯あつまでのイベント開催や震災による影響からの回復が見られ、12月と3月の入込客数が前年度同月よりも微増しました。また、前年度同期の増加要因となっていたランタンまつり及びスターフェスタについては前年並でした。

(11) むかわ町 (入込数：200.5千人 前年度比：93.9% 前年度増減数：▲13.1千人)

【上期】

むかわ四季の湯等、町内にある各施設の入館者が減少したため、前年度同期と比較すると入込客数は3.4%の減少となりました。月別で見ると、7月の入込客数が対前年度同月比14.0%と大きく増加していますが、これは町内の一部施設へ訪れる道外客が増加したことによるものです。

【下期】

全体的に減少しており、特に2月の入込客数が前年度同月よりも17.65%減少と、今期一番の減少となりました。

以 上